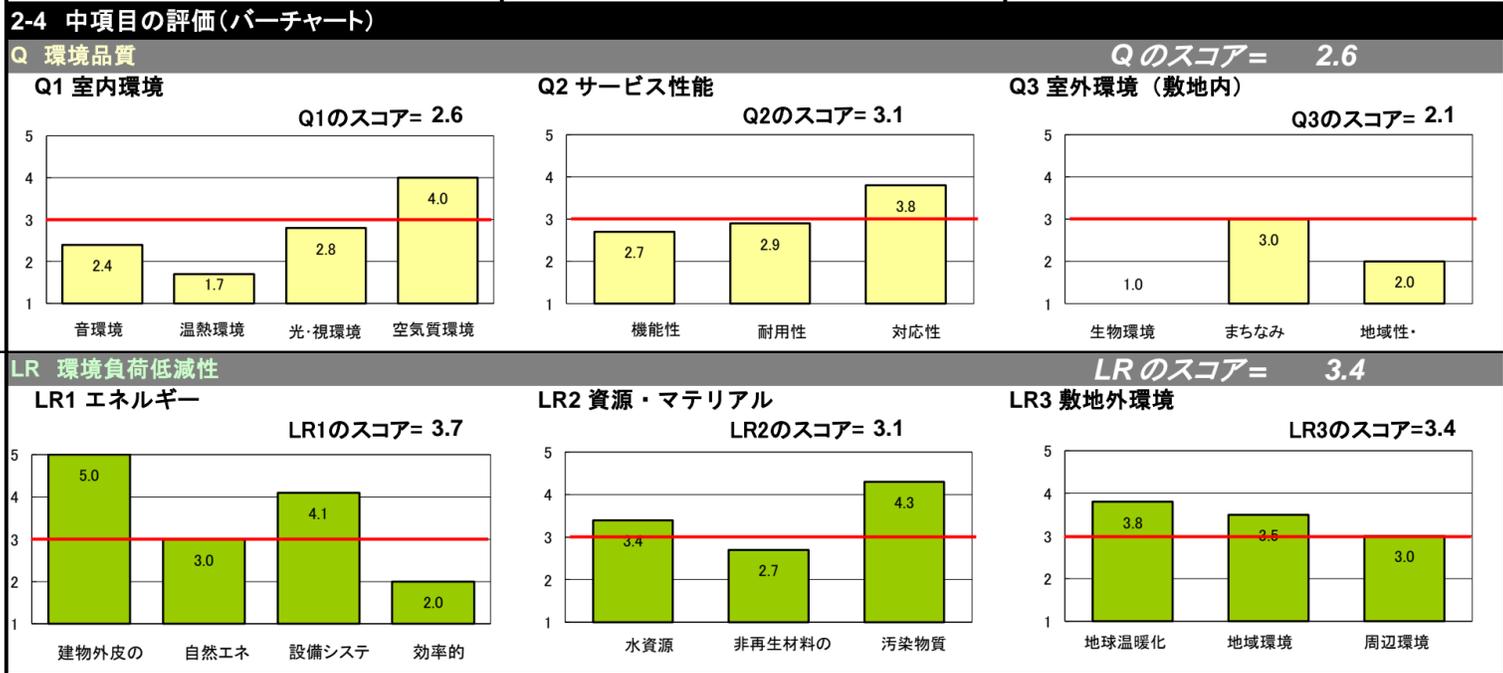
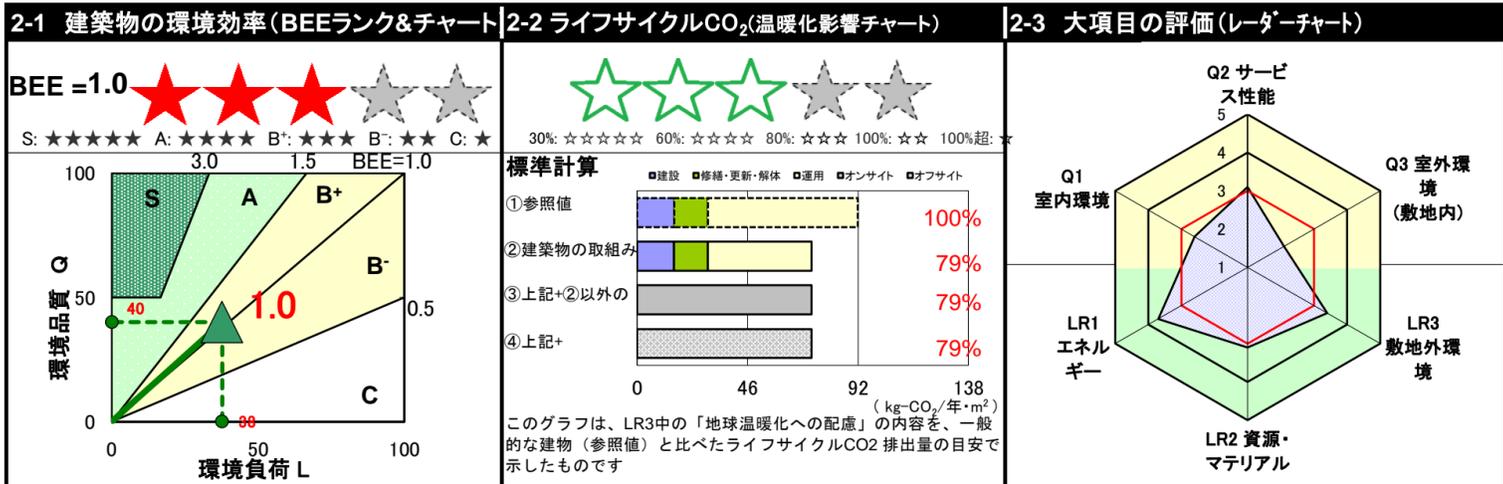


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	有限会社石川研磨 第四工場	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県刈谷市西境町森 108番1、109番	構造	S造
用途地域	指定なし (市街化調整区域)	平均居住人員	40 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,171 時間/年
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2021年6月 予定	評価の実施日	2020年12月14日
敷地面積	3,305 m <sup>2</sup>	作成者	藤井良輔
建築面積	1,639 m <sup>2</sup>	確認日	2020年12月14日
延床面積	2,350 m <sup>2</sup>	確認者	藤井良輔



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p><b>3.8</b></p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p><b>1.0</b></p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p><b>12.9 %</b></p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p><b>0.0 %</b></p>
<p>②資源の有効活用</p> <p><b>3.0</b></p>	<p>④地域材の活用</p> <p><b>1.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目	重点項目			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
				Q 建築物の環境品質									
Q1 室内環境						0.32							2.6
1 音環境				0.1	2.4	0.15							2.4
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40				3.0			
1.2 遮音				0.4	2.6	0.40							
1 開口部遮音性能					3.0	0.60				3.0			
2 界壁遮音性能					2.0	0.40				3.0			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										3.0			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										3.0			
1.3 吸音					1.0	0.20				3.0			
2 温熱環境				0.3	1.7	0.35							1.7
2.1 室温制御				0.5	2.5	0.50							
1 室温				3.0	3.0	0.38				3.0			
2 外皮性能				3.0	1.0	0.25				3.0			
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.38							
2.2 湿度制御				3.0	1.0	0.20				3.0			
2.3 空調方式				3.0	1.0	0.30				3.0			
3 光・視環境				0.2	2.8	0.25							2.8
3.1 昼光利用				0.3	3.0	0.30							
1 昼光率				3.0	3.0	0.60				3.0			
2 方位別開口										3.0			
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40				3.0			
3.2 グレア対策				0.3	3.0	0.30							
1 昼光制御				5.0	3.0	1.00				3.0			
3.3 照度				3.0	2.0	0.15				3.0			
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25				3.0			
4 空気質環境				0.2	4.0	0.25							4.0
4.1 発生源対策				0.5	5.0	0.50							
1 化学汚染物質				3.0	5.0	1.00				3.0			
4.2 換気				0.3	3.0	0.30							
1 換気量				3.0	3.0	0.33				3.0			
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33				3.0			
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.33				3.0			
4.3 運用管理				0.2	3.0	0.20							
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	1.0	0.50							
2 喫煙の制御				3.0	5.0	0.50							
Q2 サービス性能						0.30							3.1
1 機能性				0.4	2.7	0.40							2.7
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	2.0	0.40							
1 広さ・収納性				3.0	1.0	0.33				3.0			
2 高度情報通信設備対応				3.0	2.0	0.33				3.0			
3 バリアフリー計画			独自	3.0	3.0	0.33							
1.2 心理性・快適性				0.3	3.0	0.30							
1 広さ感・景観(天井高)				3.0	3.0	0.33				3.0			
2 リフレッシュスペース				3.0	5.0	0.33							
3 内装計画				3.0	1.0	0.33							
1.3 維持管理				0.3	3.5	0.30							
1 維持管理に配慮した設計				3.0	4.0	0.50							
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50							
2 耐用性・信頼性				0.3	2.9	0.31							2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48							
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80							
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20							
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.1	0.33							
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.23							
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			②		3.0	0.23							
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.09							
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08							
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					4.0	0.15							
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.23							
2.4 信頼性				0.1	2.6	0.19							
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20							
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20							
3 電気設備				3.0	3.0	0.20							
4 機械・配管支持方法			②	3.0	1.0	0.20							
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20							

3 対応性・更新性			0.2	3.8	0.29	-	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	4.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	4.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.1	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	4.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.38	-	-	-	2.1
1	生物環境の保全と創出	独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.7
1	建物外皮の熱負荷抑制		3.0	5.0	0.22	-	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		3.0	3.0	0.12	-	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		3.0	4.1	0.46	-	-	-	4.1
4 効率的運用			0.2	2.0	0.20	-	-	-	2.0
集合住宅以外の評価			1.0	2.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	1.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.1
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1	節水		3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1	材料使用量の削減		-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	②	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	独自	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自	3.0	4.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	4.3	0.22	-	-	-	4.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	5.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	4.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	5.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.8	0.33	-	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			0.3	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2.1	大気汚染防止		-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	0.50	-	-	-	
2	振動	独自	-	3.0	0.50	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>3.8</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>3.0</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.8	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11
<b>④ 地域材の活用</b>			<b>1.0</b>
		(評価ポイント)	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 近隣が農地であるため、高さは10m未満とした。建物外壁色は近隣への反射を少なくするため黒をベースとする。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 天井、壁、床材すべてF☆☆☆☆を使用する。空調はパッケージエアコンとし、個別で温度調整をする。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。空間のゆとりについては主用途が工場であり、天井横行クレーンを設置するため、高さ、床荷重にはゆとりを持たせるよう配慮している。工場:1階階高は6.0m。2階工場床積載荷重は1.0トン/㎡を確保している。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 外観は黒を基調に落ち着いた配色とした。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 一般照明機器をLEDとする。1階工場高窓の設置。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型洋便器、自動洗浄小便器、F☆☆☆☆仕上げ材の使用。(塗装材、錆び止め、塗床材)。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 近隣敷地の駐車場を合わせて、従業員分以上の台数を確保。自転車置場(屋根付)の設置あり。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。